

動物介在教育・療法学 基礎講座

医療施設、介護施設、保育施設でのボランティアのこころえ

ボランティアとは？

ボランティアといっても、その内容は災害援助をはじめ、手話や点字、学校や保育現場の支援、病院や施設への慰問、清掃、地域のパトロールなど様々な形があります。阪神淡路大震災から、今年で24年が経過し、その時は日本中から「ボランティア」を行うために、167万人の人々が集まってきました。この災害をきっかけに、日本においてボランティアの認識が高まりました。

現在、動物介在教育・療法学は、ほとんどがボランティアによって行われています。今回は、医療現場や保育施設におけるボランティアについて考えてみたいと思います。

ボランティアを行う時の心構え

1. 知識を持ちましょう

ボランティアを行う時には、行う場所、行う内容についての理解をしてから行いましょう。

1) 医療施設

(1) 医療施設とは

「医療法においては、医業を行うための場所を病院と診療所とに限定し、病院と診療所との区分については、病院は20床以上の病床を有するものとし、診療所は病床を有さないもの又は19床以下の病床を有するものとしている。」つまり、私たちが「病院」といっている場所は、病院と診療所の2種類が存在しています。

また、その中には総合病院や子ども専門の病院、がんセンターやホスピス、リハビリ病院、精神病院などがあり、ボランティアを行う際にどのような医療施設であるのかを理解し、ボランティアの内容も選択する必要があります。

(2) 医療施設にはいろいろな人が働いています

医療施設には、医師や看護師をはじめ様々な職種の方が働いています。医師は、患者の治療方針を決めます。医師の指示のもとにリハビリを行うのは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士です。そのほかにも、薬剤師、検査技師、レントゲン技師などの職種もあります。また、直接検査や治療に関係していない職種として、退院後の生活や、支払いの方法などの社会的なサポートをするソーシャルワーカーや、事務を行うクラークなどもいます。医療はチームで患者さんとその

家族を支えます。

(3) 医療や介護の現場にはいろいろな機械があります

車いすやストレッチャー、松葉杖や歩行器などをはじめ、点滴を行う為の輸液ポンプ（図1 参照）、シリンジポンプ（図2 参照）、酸素吸入器、痰などを吸引する吸引機など様々な道具があります。機械のアラームなどが鳴ったら、自分で対処しないで、スタッフを呼びましょう。

また対象者が移動するための、車いすやストレッチャーは、必ずストッパーをかけてから行動しましょう。

(4) チューブ類には特に注意しましょう

患者さんの中には、体にチューブが入っていたり、酸素を吸入するために酸素のチューブを使用している方もいらっしゃいます。何かに引っ掛けて抜けてしまうと命にかかわることもあるので、チューブを入れている人に関わる時には細心の注意をはらい、行動しましょう。

2) 医療施設以外の施設



図1 輸液ポンプ（TERUMO ホームページより）



図2 シリンジポンプ（TERUMO ホームページより）

① 高齢認知症患者の共同生活住居

・認知症対応型共同生活介護施設（グループホーム）：認知症の診断を受けた要支援2以上の人が入所する施設。

② 介護保険施設

・介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）：常に介護が必要な要介護3以上の人が入所する施設。
・介護老人保健施設（老健）：リハビリ等を提供し、在宅復帰を目指す要介護1以上の人が入所する施設。

③ 利用の形の分類

・訪問型：訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問介護
・通所型：デイサービス、デイケア
・臨時利用型：ショートステイ

3) 保育施設

保育施設には、幼稚園、保育所、認定こども園があります。それぞれの園ごとに、教育方針や指導方針が異なり特色があります。動物飼育に関しても、動物をまったく飼育していない園や、ウサギやニワトリなどの小動物を飼育している園、またヤギやポニーなどの大動物を飼育している園など様々です。そして、そこにいる子どもたちも、個性があります。活動を行うときには、それらを踏まえて行いましょう。

2. 健康管理をしましょう

自分の体調が悪い時には、ボランティアの参加はやめましょう。患者さんや、利用者さんまた子ども達に感染させる可能性もあります。また、自分も感染する可能性があるため、ボランティアの前後は、手洗いやうがいを行いましょう。

特に保育施設では、感染症が多い可能性があります。予防接種をすることも考慮する必要があります。最近では麻疹（はしか）や風疹が流行することがあります。ボランティアを行うときは、麻疹、風疹、インフルエンザ等の予防接種を行っておくことが望ましいでしょう。また、可能であれば、抗体検査を行うことが推奨されます。できれば事前に実施する施設の方に、確認をしましょう。

3. ルールや決まり事は守りましょう

訪問する時間や内容など、施設の方と決めた内容は守りましょう。施設の方もスケジュールの調整を前もって行っています。急用や体調不良などでボランティアに行けなくなった場合は、早めに連絡しましょう。

ボランティアの内容についてもあらかじめ施設の方と打ち合わせを行い、確認をしましょう。急に打ち合わせ以外のことをすると、事故などにつながる可能性

もあります。

4. 礼儀を大切に

気持ちよくボランティアを行う為に、礼儀を大切にしましょう。明るいあいさつや、清潔な身だしなみ、相手を尊重する話し方などに心がけましょう。そうすることで、自分も相手も明るい気持ちになれます。

特に高齢者の方と話をするときは、つい「どうしたのかな？」など、子どもに話しかけているような声掛けになってしまうことがあります。これは、自分より人生の先輩に失礼に当たります。「どうしたのかな？」ではなく、「どうかされましたか？」と声をかけましょう。また、話を聞くときも、「うん、うん」ではなく、「はい」と返事をしましょう。

5. プライバシーの保護

ボランティアを行っている時、施設で様々な人に会います。知り合いの方に会うこともあるでしょう。しかし、その施設に入所していることを、自分の家族や知人などに話してはいけません。SNSに書きこむことなどもってのほかです。

施設に入所している理由や、入所していることを知られたく人もいます。またボランティアの中で知りえた情報（例えば、住所や電話番号、家族構成など）も、漏らさないことが大切です。

6. 安全に行いましょう

ボランティアを行う上で安全を守ることは重要です。被災地で活動する時には、まず自分の安全を確保することが最優先です。施設でボランティアを行うときも同じです。AATを行うときは、対象者の安全、自分の安全、そして介在動物の安全を守ることも重要です。そのためには、行う場所、行う内容を十分検討し、またボランティア保険にも加入してから活動を行いましょう。ボランティア保険は所属する団体や、対象の施設の方に確認しましょう。

まとめ

ボランティアは自主的に行う活動で、見返りはありません。自主的だからといって、自分勝手にやってよい活動という意味ではありません。ボランティアを行うときには、さまざまな責任があります。そのことを踏まえ活動する必要があります。

しかし、対象者も活動を行う人も、そして活動を行う動物も、うれしい気持ちになり、ハッピーになることがボランティアのご褒美だと私は思います。

（東京福祉大学 佐野 葉子）